



第1回 私と大詫間

～大詫間への想い 思い出等について～



今月号から、地域の方から大詫間への想いや小さい頃の思い出などをお寄せいただく『私と大詫間』シリーズが始まります。



8402211



トップバッターは
大9区 長谷川 定 さん

「子供の頃の思い出を」

その日の朝は快晴。真新しい空気に包まれて家族が座敷に顔を揃えた。おせっだい（応接台）には鏡餅とお屠蘇。やがて「年取り」が始まる。小学生の私は終わるのが待ち遠しかった。早くお年玉が欲しい…のである。しかしその前に決まって祖母が「としのはじめのためしとて～」と歌いだす。そして父が「去年は…だった。今年はだいでん…せんば。」などとしゃべった。

今年64回目の正月を迎えました。子や孫はコロナの影響もあって顔を出しませんでしたが、過ぎし一年を振り返り、新しい年を思いました。人の一生は「学ぶとき、夢を追って働くとき、恩返しをするとき」という三つの段階に分けられるそうです。そろそろ三つ目の段階かなと思いました。

「大詫間の民俗」という本が公民館に置いてあります。昔のことを思い起こすことはこれからのことを考えることにつながります。子ども達に大人が言葉で伝える。将来、故郷のために力を注いでくれるのは、その言葉を心の中に大事にしまっていた人ではないでしょうか。そう思えばこそ、この地域の子ども達に一つでも多くの大詫間の思い出を残してやりたいと思います。

成人学級 『大詫間の防災を考えよう!』 12月17日(木)

12月の成人学級はまちづくり協議会暮らし絆部会と共催で防災についての講座を実施しました。

今回はまちづくり協議会の役員や自治会長、サークルの方たちにも集まっていただきました。「もし住民自身で避難所を運営しなければならなくなった時に、避難者の部屋割り、炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間をどうするか、支援や視察、取材対応をどうするか、などを『HUG』という避難所運営ゲームをして全員で一生涯懸命考えました。

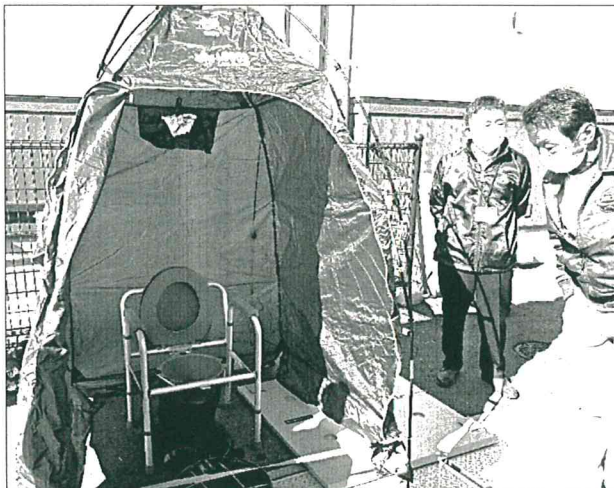


避難所運営ゲームHUG
避難所の色々な問題を相談・解決しながら自分たちで運営していくゲームです。

次に公民館にはどんな備蓄品があるのかを確認しました。避難所にはない自分に必要なものは何かを日頃から考えて、避難の際にすぐに持ち出せるよう準備しておきましょう。

また、講師の佐賀県防災士会の方からは避難所での物資の配分のこと、女性たちが困っていたこと、トイレのことなど実際にボランティアに行かれた際のお話もいただきました。

今後も公民館とまちづくり協議会で協力して防災訓練などを計画していきますので、みなさんのご協力とご参加をお願いします。



公民館の備蓄用品確認
マンホールトイレの設置手順を確認しています。

年忘れ! 健康グラウンドゴルフ大会 12月13日(日)

まちづくり協議会暮らし絆部会と公民館の共催でグラウンドゴルフ大会を開催しました。この日は冬らしく冷え込みの厳しい朝でしたが、日頃から練習を頑張っている人も初心者も一緒にグラウンドゴルフを楽しみました。

スタート位置から狙いをつけボールを打ちますが、石や草に邪魔をされ思ったコースに行きません。そんなところもグラウンドゴルフのおもしろいところですね。あちらこちらで歓声や笑い声が起こっていました。

こんな風に、「大詫間のひと」で催しを色々考えて、どんどんやってみましょう。公民館やまちづくり協議会に「こんなイベントがあったらいいな」や「こんなことをやってみたい」などを伝えてみてください。みんなで企画してやりたいことをやっていくのはきっと楽しいですよ。

